

埋蔵文化財試掘調査報告 31

平成 30 年度 香川県内遺跡発掘調査

2019.11

香川県教育委員会

例　　言

- 1 本書は香川県教育委員会が平成30年度国庫補助事業として実施した香川県内遺跡発掘調査事業のうち、開発計画との調整に係る埋蔵文化財の範囲確認等調査の概要について、平成31年度国庫補助事業として実施している香川県内遺跡発掘調査事業において作成したものである。
- 2 調査対象は、国道バイパス建設、県道建設、その他の独立行政法人・県事業、県営農政事業である。
- 3 調査は県教育委員会が調査主体となり、県埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 本書の編集は県埋蔵文化財センターが担当した。
- 5 本書の挿図の一部には国土交通省国土地理院の2万5千分の1地形図を使用した。
- 6 調査にあたっては、国土交通省四国地方整備局香川河川国道事務所、国立研究開発法人西日本農業研究センター、県土木部道路課、中讃土木事務所、高松土木事務所、県農政水産部農村整備課、中讃土地改良事務所、高校教育課、特別支援教育課、県内各市町教育委員会、その他地元関係各位の協力を得た。

目 次

第1章 平成30年度香川県内遺跡発掘調査事業の実施に至る経緯	1
第2章 国道バイパス建設予定地内の調査	4
(1) はじめに	4
(2) 調査の概要	4
国道11号大内白鳥バイパス建設（1工区）	4
国道11号豊中觀音寺拡幅	10
国道438号（飯山工区）道路整備	12
第3章 県道建設予定地内の調査	18
(1) はじめに	18
(2) 調査の概要	18
県道太田上町志度線（六条工区）道路建設	18
第4章 独立行政法人・県事業予定地内の調査	20
(1) はじめに	20
(2) 調査の概要	20
西日本農業研究センター 用水路左岸法面土砂搬出等工事	20
老朽化校舎等改築事業（坂出高校 体育館解体及び改築）	22
小豆地域特別支援学校整備事業	24
第5章 県営農政事業予定地内の調査	27
(1) はじめに	27
(2) 調査の概要	27
経営体育成基盤整備事業（羽床下地区8工区）	27
経営体育成基盤整備事業（羽床下地区9工区）	30
農業試験場府中果樹研究所擁壁等設置工事	34

第1章 平成30年度香川県内遺跡発掘調査事業の実施に至る経緯

香川県教育委員会（以下、「県教委」という）は、国民共有の貴重な文化遺産である埋蔵文化財の適切な保護を図るため、昭和58年以来、過去31回にわたり国庫補助事業として遺跡詳細分布調査及び遺跡発掘調査を実施してきた。

昭和61年度から開始した遺跡詳細分布調査は、昭和63年度以降、県道建設事業や県営ほ場整備事業を調査対象に加え、平成5年度以降ではさらにその他の県事業も加えて、国・県主体の開発事業に伴う、適切な埋蔵文化財の把握と保護に努めてきた。平成7年度には整備が急がれていた四国横断自動車道（津田－引田間）建設予定地内の分布調査を実施し、広大な大型事業にも随時対応を図っている。

さらに、平成8年度には、県内全域の埋蔵文化財を対象として、種々の開発事業に対する事前の調整を図ることを主眼に置き、事業名を「香川県内遺跡発掘調査事業」に変更し、継続して分布・試掘調査を中心に事業を遂行している。

平成30年度は従前の調査方法を踏襲し、国道事業、県道事業、独立行政法人・県事業及び県営農政事業予定地を対象として事業を実施した。事業の実施概要としては、前年度末に国・県等の事業課に今後3年間（平成30～32年度）の事業計画を照会し、回答のあった事業に対して遺跡地図と照合した結果を表1のとおり回答した。その後、回答結果に基づいて関係各課と協議を重ねながら、必要なものについて分布・試掘調査等を実施し、事業実施前に埋蔵文化財の保護に係る必要な協議資料を得てきたものである。

なお、事業実施機関は香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課で、今年度（平成30年度）の体制は下記のとおりである。なお、香川県埋蔵文化財センターが関係各課との協議を補助し、分布・試掘調査等を担当した。

香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課

総括	課長	白井道代
	副課長	片桐孝浩
文化財	課長補佐（兼）	片桐孝浩
グループ	主任文化財専門員	信里芳紀
	主任技師	真鍋貴匡

香川県埋蔵文化財センター

総括	所長	西岡達哉
	次長	時松弘志
調査課	課長	古野徳久
	文化財専門員	宮崎哲治

	史A	A	B	C	D	不明	合計
平成 19 年度	8	31	74	19	417	0	549
平成 20 年度	11	32	85	42	394	0	564
平成 21 年度	9	46	76	24	385	0	540
平成 22 年度	3	33	50	33	348	0	467
平成 23 年度	10	36	91	45	314	0	496
平成 24 年度	9	42	96	30	411	0	588
平成 25 年度	5	47	101	35	460	0	648
平成 26 年度	9	46	106	40	534	0	735
平成 27 年度	9	44	103	36	538	0	730
平成 28 年度	6	34	68	14	581	13	703
平成 29 年度	7	33	56	25	552	0	673
平成 30 年度	8	27	128	72	468	0	703

(参考：回答内容)

区分	埋蔵文化財包蔵状況及びその取扱い要領
史A	事業予定地は史跡・名勝・天然記念物指定地内に含まれるため、現状変更許可が必要です。ついては、事前にその取扱いについて当課と協議願います。
A	事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が所在しているため、事業実施前でのできるだけ早い段階で、その取扱いについて当課と協議願います。
B	事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が隣接しているため、事前に当課が当該地の分布調査等を実施しますので御協力ください。
C	事業予定地及びその周辺に埋蔵文化財包蔵地は所在しませんが、事業面積が広大であるため、事前に当課が当該地の分布調査等を実施しますので御協力ください。
D	事業予定地及びその周辺に埋蔵文化財包蔵地は所在しませんが、工事実施中に出土品の出土等により新たに遺跡と認められるものを発見した場合には、文化財保護法第97条第1項の規定による遺跡発見通知を当該市町教育委員会に提出するとともに、その取扱いについて当課と協議願います。

表1 工事件数と埋蔵文化財取扱いの推移



図1 調査地位置図（番号は表2に対応する）

事業名	番号	原 因	所 在 地	試掘調査期間	面積 (m ²)	遺跡名	種別	時代	保護措置	成果
国道事業	1	国道 11 号大内白鳥バイパス、 東かがわ市白鳥・帰来	東かがわ市伊座	2018.5.16	53.2	—	—	—	包藏地確認されず ^a	
			東かがわ市白鳥・帰来	2018.7.17 ~ 19	145.6	城泉東遺跡	集落跡	中世	包藏地確認記録保存予定	
			東かがわ市白鳥・帰来	2018.10.2 ~ 3、11.1	193.4	—	—	—	包藏地確認されず ^a	
国道事業	2	国道 11 号豊中觀音寺	東かがわ市白鳥・帰来	2019.1.24 ~ 30、2.1 ~ 4	151	—	—	—	包藏地確認されず ^a	
			三豊市豊中町	2018.5.21 ~ 31	50	—	—	—	包藏地確認されず ^a	
県道事業	3	国道 438 号（飯山工区）道路整備	三豊市豊中町	2018.6.21、7.27	16	—	—	—	包藏地確認されず ^a	
			丸龜市飯山町	2018.12.17 ~ 19 ~ 20、 2019.1.15 ~ 16 ~ 21 ~ 22	659.6	沖遺跡 沖南遺跡 岡遠田遺跡	集落跡	古代 中世	包藏地確認記録保存予定	
独立行政法人・県事業	4	県道太田上町志度線道路建設（六条工区）	高松市六条町	2019.1.10	86.4	—	—	—	包含地確認されず ^a	
			普通寺市仙造町	2018.7.4	204	—	—	—	包藏地確認されず ^a	
農政事業	5	用水路左岸法面土砂搬出等工事	坂出市文京町	2018.9 ~ 10	120	文京町二丁目遺跡	散布地	弥生	保護措置完了	
			小豆島町池田	2018.12.21	81.1	—	—	—	包含地確認されず ^a	
農政事業	6	老朽化校舎等改築（坂出高校 体育館）	綾川町小野	2018.5.22	59.1	小野・白石遺跡	集落跡	弥生 古墳	包藏地確認記録保存予定	
			綾川町北	2018.7.23 ~ 25	478	北・武徳遺跡	集落跡	弥生	包藏地確認記録保存予定	
農業試験場	7	小豆地域特別支援学校整備事業	坂出市府中町	2018.12.6	32	蓮光寺山遺跡	散布地	—	包藏地確認されず ^a	

表2 香川県内遺跡発掘調査総括表

第2章 国道バイパス建設予定地内の調査

(1) はじめに

国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財の保護については、これまで県教委と国土交通省四国地方整備局香川河川国道事務所及び県土木部道路課（各土木事務所含む）との間で適宜協議を行い、その適切な保護に努めてきた。平成30年度には国道11号大内白鳥バイパス建設、国道11号豊中観音寺拡幅、国道438号道路整備について本格的な協議を行い、東かがわ市、三豊市、丸亀市で試掘調査を実施した。

(2) 調査の概要

国道11号大内白鳥バイパス建設（1工区）

（対象地の状況）

今回の対象地は3地点に分かれる（A～C地区と仮称）。A地区は東かがわ市白鳥市街地の南の丘陵と沖積地の境界付近で、周辺には西に周知の埋蔵文化財包蔵地「城泉遺跡」、東に「秋葉神社古墳」「田高田北遺跡」が所在する。B地区はA地区の丘陵の一部とその東側の沖積地で、丘陵上には周知の埋蔵文化財包蔵地「赤坂古墳群」が所在している。C地区は白鳥町の沖積地の最奥部付近で、丘陵間の谷を利用したため池「新池」の前面に当たる。過去のほ場整備で谷を埋めて平坦地にしたとの聞き取りを得ている。

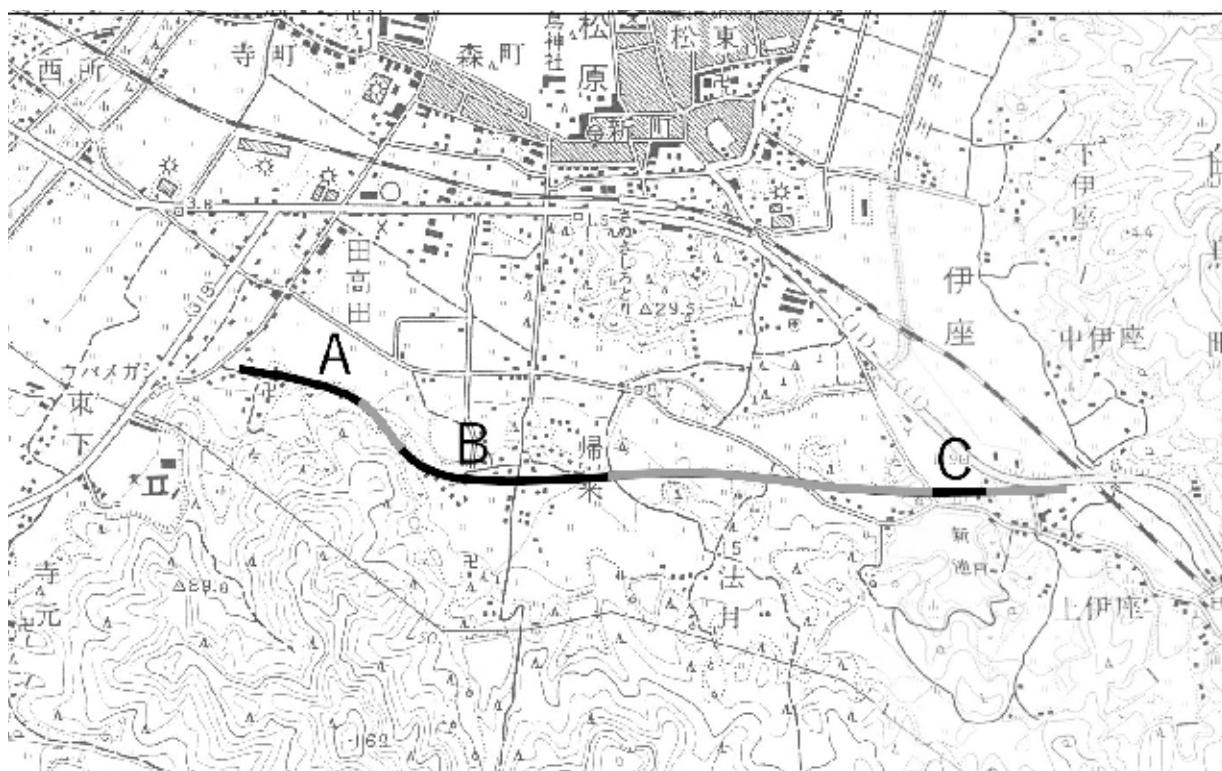


図2 調査地位置図（国土地理院1/25,000「引田」「三本松」）

（調査の結果）

A地区は、丘陵頂部付近の27・28トレンチから丘陵末端部の31トレンチでは上面を削平された基盤層となる黄色粘土層が見られ、遺構・遺物は認められなかった。また、丘陵の裾付近の竹林部分は戦後

の開墾によって旧地表面を留めないほどの改変を受けていることを確認した。30・32 トレンチ以西では沖積地に由来する砂層が分厚く堆積している状況を確認した。これらの状況は過去の試掘結果と一致するものである。37 トレンチでは砂層中で溝 1 条、柱穴 2 基を検出しており、砂層の堆積途中で生活できるほど安定した時期が存在したことがうかがえる。

B 地区は、「赤坂古墳群」の範囲内に当たる丘陵斜面の 25・26 トレンチでは表土直下で、階段状に開墾された 21～24 トレンチでは上から流れ落ちた粘質土層の下で基盤層となる花崗土に由来する黄色粘土層を確認した。裾部に当たる 16～20 トレンチでは基盤層の上に粗砂や砂質土の分厚い堆積が見られた。遺物の包含状況は極めて希薄で、当該地周辺に遺跡が存在する可能性は極めて低いと考えられる。なお、25 トレンチの斜面下の竹林部分は旧地表面を留めないほどの改変を受けていることを確認した。沖積地部分は締まりのない砂層が分厚く堆積しており、遺構は全く認められず、8・9 トレンチの床土直下で近世陶器片が 2 点出土しただけであった。

C 地区では、事前の聞き取り通り、耕作土下に花崗土、廃棄物を含む粘質土が 1.0～1.5 m 程度の厚さで見られ、その直下で上面を削平された基盤層を確認した。4 トレンチでは湧水に加えて暗灰褐色粘土の分厚い堆積が見られたことから、谷を流れていた旧河道に相当すると考えられる。遺構・遺物は全く検出することができなかった。

(まとめ)

以上の結果から、遺構を確認した A 地区の 37 トレンチ周辺を新規の包蔵地「城泉東（しろいづみひがし）遺跡」(653.81m²) として、事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断する。なお、B 地点のうち 25・26 トレンチを設定した斜面部は周知の包蔵地「赤坂古墳群」の範囲内に当たるため、さらにトレンチを追加して調査を行いその結果で判断すべきである。A～C 地区のうち別図に示した範囲については、文化財保護法に基づく保護措置は不要である。

< A 地区 >

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
27	8.0 × 0.6	なし	なし	25・26 トレンチとは別の尾根頂上やや下の平坦地に設定。表土下に尾根の基盤層を確認。
28	9.0 × 0.6	なし	なし	27 トレンチに直交して設定。堆積状況は 27 トレンチと同様。
29	12.0 × 1.6	なし	なし	山裾を造成した住宅跡。旧耕作土下には丘陵から流出した砂質土が堆積し、地表下 55cm で基盤層の真砂土を確認。
30	4.0 × 1.5	なし	なし	田高田集会所の東隣の休閑地。地表下 110cm で地山を確認。地山の上位は粗砂、混砂粘質土が堆積している。
31	4.3 × 2.0	なし	なし	丘陵端を開いた旧水田。耕作土直下で上面に削平を受けている丘陵のベース層を確認。
32	4.0 × 1.8	なし	なし	丘陵西側の谷地形の内部に当たる部分で、33～35 トレンチと同様分厚く砂層が堆積。
33	4.0 × 1.8	なし	なし	住宅跡地で、造成土の下は分厚い砂層が堆積する。谷状地形を埋めた砂層と判断できる。
34	7.0 × 1.8	なし	なし	住宅跡地で、砂層の堆積状況は 33 トレンチと同じ。
35	7.0 × 1.8	なし	なし	住宅跡地で、堆積状況は 33・34 トレンチと同じ。

36	11.0 × 1.8	なし	なし	地表下 50cmで地山層を確認。地山は東へ深くなり、上位に砂層が堆積することから、谷地形が想定される。
37	10.0 × 1.8	溝 1、 柱穴 2	なし	地表下 60cmで時期不明の溝 1（幅 30 × 深さ 30cm）、柱穴 2（直径 50 × 深さ 20cm、直径 30 × 深さ 15cm）が存在する遺構面を確認。
38	7.6 × 1.6	なし	陶磁器片	地表下 80cmで希薄な近世以降の包含層を確認。地山層上面で湧水が見られる。

< B 地区 >

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
6	15.0 × 1.8	なし	なし	地表下 50cm以下に中～粗砂の分厚い堆積を確認。地表下約 1m で礫が混じり湧水がある。
7	15.0 × 1.8	なし	なし	地表下約 80cmで中～粗砂の堆積を確認。6 トレンチと同様の堆積状況を示す。
8	13.0 × 1.6	なし	瓦器	地表下 30～50cmで同様の中～粗砂の堆積を確認。南端で近世瓦器片（鍋）1 点を含んだ土坑状の攪乱あり。
9	13.0 × 1.8	なし	陶器	地表下 60cmで中～粗砂の堆積を確認。床土から近世のすり鉢片 1 点が出土。
10	15.0 × 1.8	なし	なし	宅地駐車場の造成土の下は 9 トレンチとほぼ同様の中～粗砂層が堆積。その他旧耕作土下でレンズ状に炭が堆積するが、現代の野焼きの可能性が高い。
11	13.0 × 2.0	なし	なし	2 筆の水田を地上げして 1 筆にした場所で、盛土に現代の瓦・陶器片が混じる。地表下 150cmで地山層を確認。
12	20.0 × 1.8	なし	なし	地表下約 20cm以下は砂層と砂混じりの粘質土層の互層となるが、いずれも締まりのない堆積である。
13	5.0 × 1.0	なし	なし	土層の堆積状況は 12 トレンチと同じ。
14	16.0 × 1.7	なし	なし	土層の堆積状況は 12・13 トレンチと同じ。
15	4.0 × 0.8	なし	なし	住宅跡地だが影響は少なく、残っていた旧耕作土下で流入した粗砂層（真砂土）を確認。その下位に粘土の地山層。
16	5.0 × 1.6	なし	なし	ガレージ跡で、旧耕作土下には砂質土層が堆積する。安定した地盤は確認できなかった。
17	3.0 × 2.0 + 1.0 × 1.0	なし	なし	住宅跡の造成土（花崗土）下は砂質土・粗砂が分厚く堆積する。地表下 190cmまで下げたが粗砂が続き、湧水が著しい。
18	5.0 × 2.0	なし	なし	駐車場の造成土の下、190cmで丘陵ベースの 5 層を確認。上位には砂層が分厚く堆積。
19	22.0 × 1.6	なし	須恵器 土師器	地表下 75cmで地山（淡黄褐色真砂土）を確認。その上位に厚さ 45cm の希薄な中世遺物包含層が堆積する。
20	8.0 × 1.6	なし	なし	棚田状の 2 筆を合筆しており、地表下約 90cm で地山を確認。中央付近に現代の瓦片を含んだ大きな攪乱を確認。

21	14.0 × 1.6	なし	なし	民家への進入路際の平坦地で、地表下 55cmで削平を受けた地山層を確認。部分的に湧水が見られる。
22	7.0 × 0.8	なし	なし	階段状の果樹園跡。地表下 105cmで丘陵のベースを確認。
23	5.0 × 1.0 4.0 × 1.6	なし	なし	階段状に成形された果樹園跡。表土下 90cmで丘陵ベースの 3 層を確認。
24	7.0 × 0.8	なし	なし	22 トレンチの果樹園跡の 2 段下部分で、堆積状況は 22 トレンチと同じ。
25	8.0 × 0.6	なし	なし	「赤坂古墳群」の所在する山の北面の斜面のわずかな尾根筋に設定。表土下に山の基盤層を確認。
26	8.0 × 0.6 5.0 × 0.6 3.0 × 0.6	なし	なし	25 トレンチの上方の斜面地で、雑木林のため樹木により 3 分割して調査。堆積状況は 25 トレンチと同じ。

< C 地区 >

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	10.0 × 1.8	なし	なし	耕土下に 0.3 m 厚の花崗土、その下位は 0.9 m 厚のタイル・瓦等の廃棄物を大量に含む暗灰色粘質土層が堆積。その直下で上面を削平された花崗土層（地山）を確認。
2	5.0 × 1.6	なし	なし	耕土下に 0.2 m 厚の花崗土、その下位に 1.1m 厚の廃棄物を含む埋め土が堆積。直下で削平を受けた地山層を確認。
3	6.0 × 1.8	なし	なし	耕土下に 0.4 m 厚の花崗土、1.5 m 厚の廃棄物を含む埋め土があり、その直下で削平を受けた地山層を確認。
4	5.0 × 2.0	なし	なし	耕作土下に 0.3 m 厚の花崗土、1.1 m 厚の廃棄物を含む埋め土を確認。その直下は暗灰褐色粘土層が堆積しているが、湧水が著しく地山層の確認はできず。
5	4.0 × 1.6	なし	なし	耕土下に 0.3 m 厚の花崗土、1.3 m 厚の廃棄物を含む埋め土を確認。直下で上面を削平された地山層を確認。



写真1 1 トレンチ全景



写真2 8 トレンチ全景

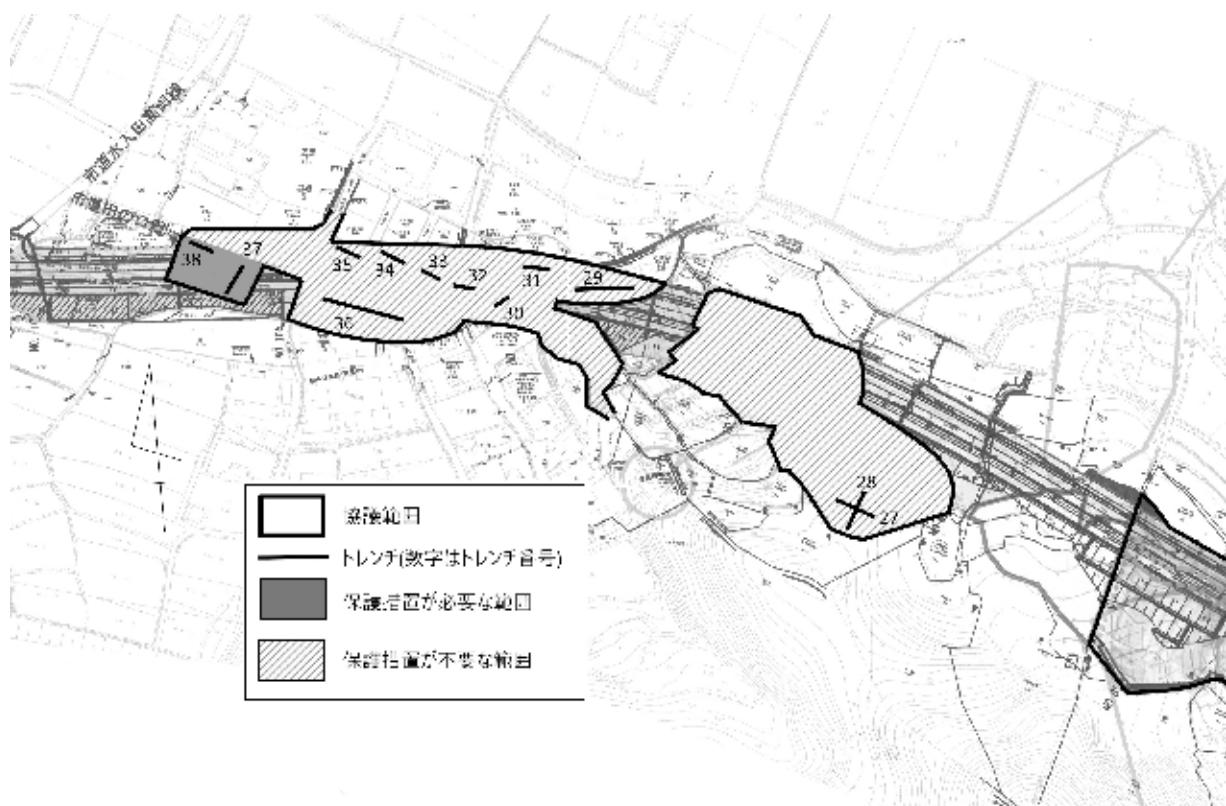


図3 トレンチ配置及び取扱図1



図4 トレンチ配置及び取扱図2

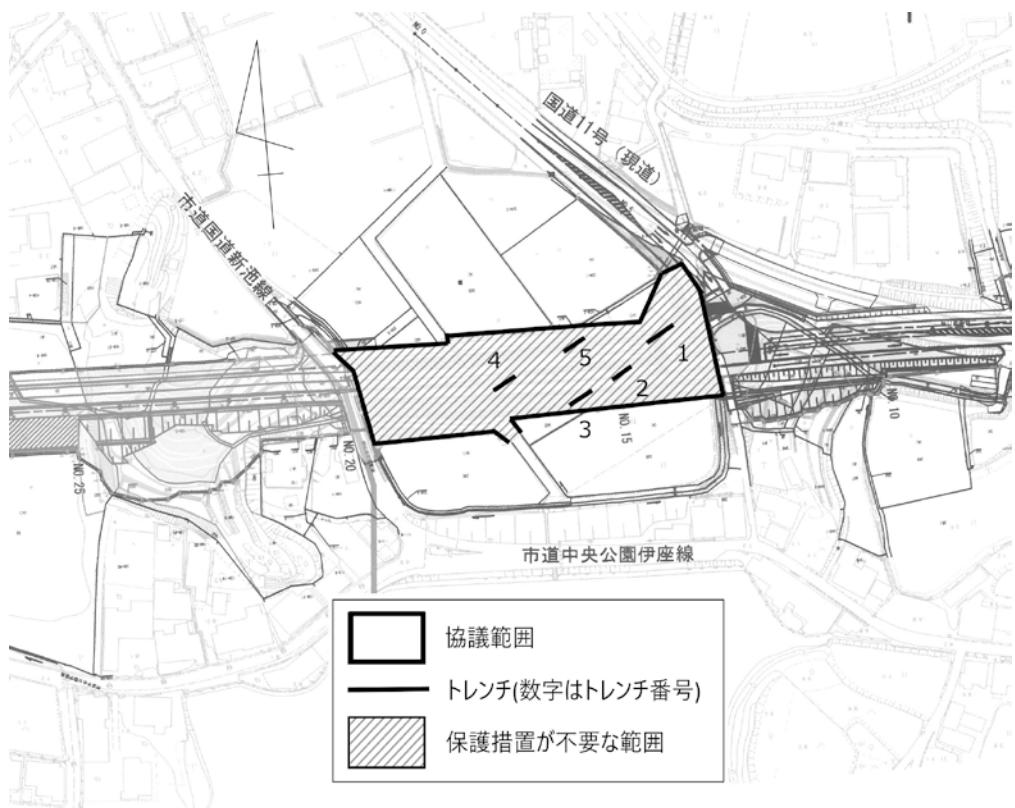


図5 トレンチ配置及び取扱図3



写真3 21 トレンチ全景



写真4 35 トレンチ全景



写真5 37 トレンチ全景



写真6 37 トレンチ 溝と柱穴

国道 11 号豊中觀音寺拡幅

(対象地の状況)

今回の対象地は2地点に分かれる（A・B地区と仮称）。A地区は東西に細長く伸びる尾根状の微高地と深い谷が連続する地形のうち、谷をせき止めたため池・鴻之池の中で、谷底に当たる。南側の微高地上には周知の埋蔵文化財包蔵地「茶の岡遺跡」（土取りで遺構面が消失、保護措置済み）が所在する。B地区は同丘陵の南斜面の縁辺部に当たり、周辺には古代寺院跡の妙音寺をはじめとする多くの遺跡があり、現国道11号は旧南海道と推定されている。

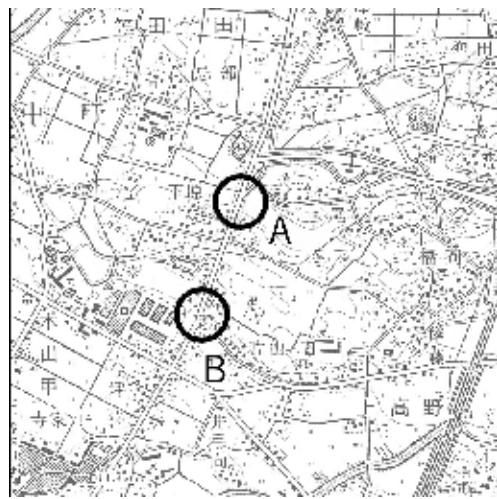


図6 調査地位置図 (国土地理院 1/25,000 「觀音寺」)

(調査の結果)

A地区は、工事を所管する四国地方整備局香川河川国道事務所善通寺国道維持出張所から工事中の遺物発見の報を受け、試掘調査を実施した。発見された遺物は古代から中世の須恵器片で、自然河川の埋積土に含まれていた。自然河川の底面も確認したが、遺構・遺物は認められなかった。埋積土中の遺物は磨滅しておらず、茶の岡遺跡から流入した可能性が高いと思われる。

B地区は、店舗や道路が存在しており、過去の試掘調査時に残った部分に当たる。建物部分はコンクリート基礎撤去時に立ち会い、基礎が旧地表面のはるか下位まで及んでいることを確認した。道路部分はトレンチ調査を行い、道路の基盤の下に旧耕作土があり、その直下に削平を受けた基盤層を確認した。ともに遺構・遺物は認められなかった。

(まとめ)

以上のことから、A地点は「茶の岡遺跡」の範囲外であり、B地点も過去の削平によって旧地表面が存在しておらず、遺構・遺物も認められないため、ともに文化財保護法に基づく保護措置は不要である。

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	5.0 × 5.0	(自然河川)	なし	谷の内部を流れる自然河川内で、底面（地山）を確認。 (遺物発見に伴う立会調査時に自然河川埋土中から須恵器片を採集)
2	7.6 × 1.6	(自然河川)	なし	トレンチ1と同様の堆積状況。
3	10.0 × 1.6	なし	なし	地表下 50cm で削平を受けた地山層を検出。周囲の既往の試掘調査結果と同じ状況。

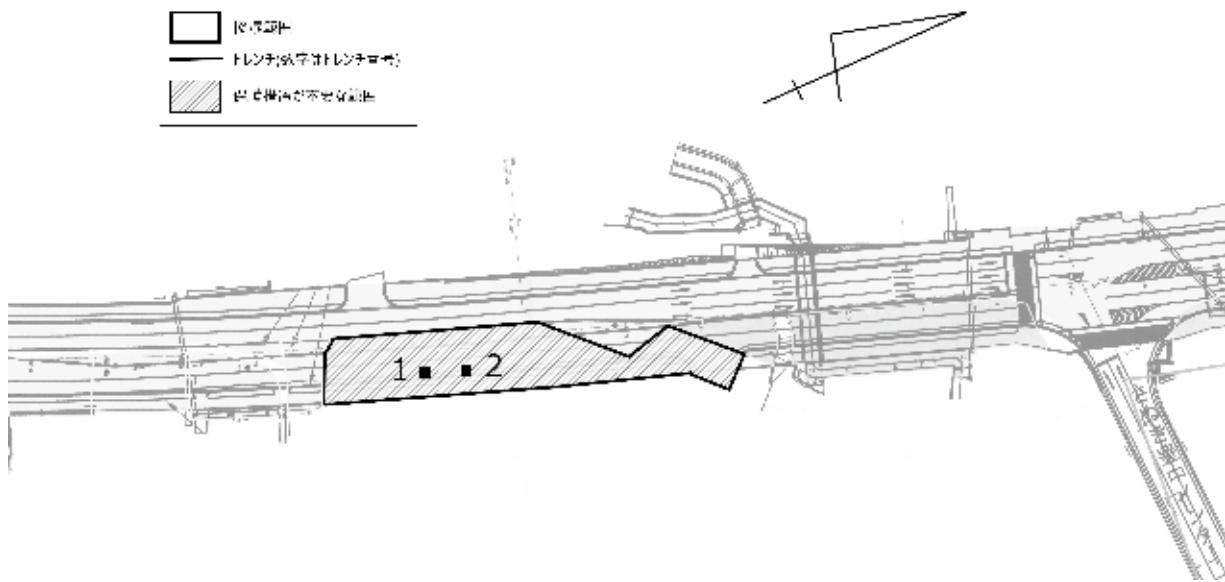


図7 トレンチ配置及び取扱図1

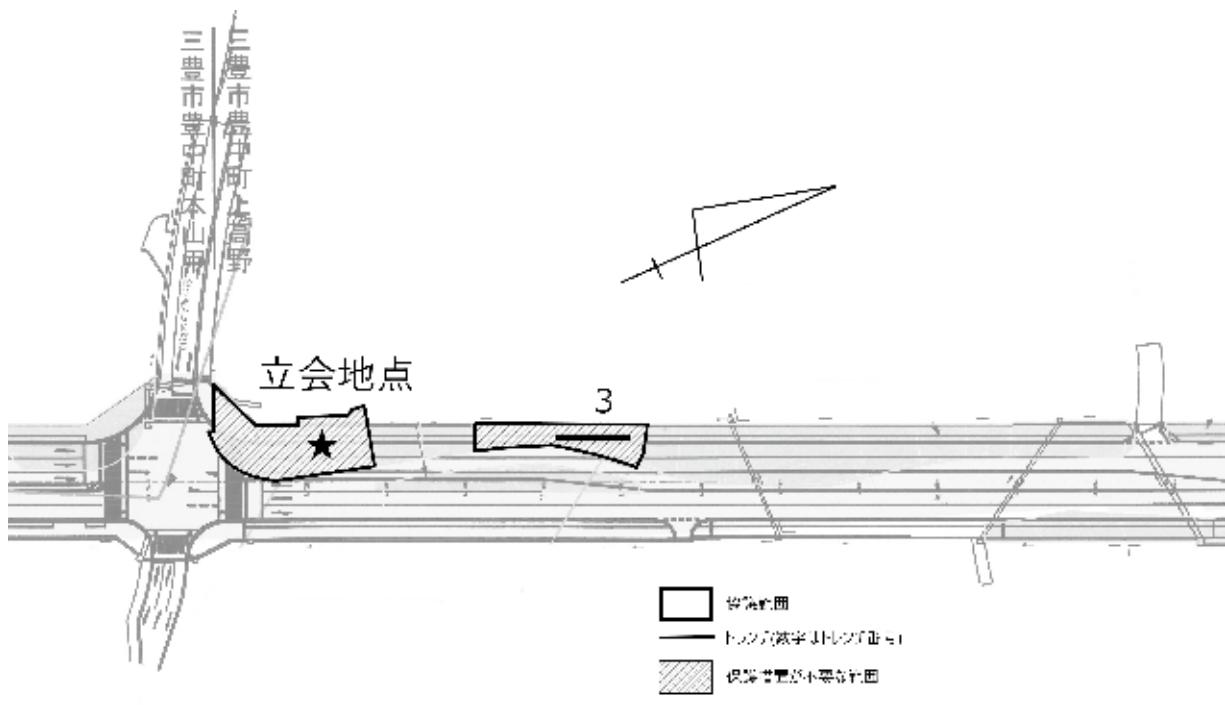


図8 トレンチ配置及び取扱図2



写真7 1・2トレンチ対象地全景



写真8 3トレンチ全景

国道438号（飯山工区）道路整備

（対象地の状況）

対象地は丸亀市南部の台地と沖積地（平野）の境界付近に当たり、地形から3地点に分かれる（A～C地区と仮称）。A地区（1～9トレンチ）は台地上、B地区（10～18トレンチ）は台地部に入り込む大きな谷筋、C地区（19～25トレンチ）は台地下の沖積地に当たる。昨年度、試掘調査を実施して確認した「沖遺跡」はC地区の100mほど北方に所在する。

（調査の結果）

台地上のA地区は微起伏が見られ、小谷の内部（2トレンチ）で溝を、微高地上（3～7トレンチ）で複数の柱穴や土坑を検出した。時期を特定する資料は得られなかつたものの集落等の居住域が広がると判断できる。台地の北縁部（8～10トレンチ）は約2mの高さを持つ階段状に開墾されており、耕作土直下に基盤層が現れる状態まで削平を受けて旧地表面は失われていた。

B地区では南端で東西両方向からの谷が合流（11トレンチ）している。基盤層上位の谷の埋積土に土師器小片が含まれていた。12～18トレンチでは粘土層や砂質土層の分厚い堆積が見られ、谷が滯水・流水を繰り返しながら埋没していくことが分かる。14・16トレンチでは傾斜の強い基盤層を確認しており、谷の両岸は比較的急峻であったことがうかがえる。中世土器をわずかに含んだ土層も見られ、埋積時期の一端を示すが、谷の埋没開始や終了の時期は判断できない。

C地区を含む一帯は条里制に由来すると考えられる方格地割が良好に遺存している。谷の出口付近（19～21トレンチ）と大東川南岸（25トレンチ）で溝や土坑を検出した。溝は周囲に残る地割と方向が合致するものが多く、20トレンチ西端で検出した比較的規模の大きな溝は、条里の坪界溝に当たると判断できる。このことから、22・23トレンチ間の現水路部分が直行する坪界に当たることが推測される。これらの溝や土坑からは中世の土師器碗等が出土しており、包含層からではあるが、龍泉窯産と見られる青磁碗片が1点出土している。谷の出口（台地の北縁端）に近い19トレンチ等では台地の基盤層（黄色系粘土）が浅いところで見られたが、21トレンチからは一気に潜り込んでおり、地形の境界の様子

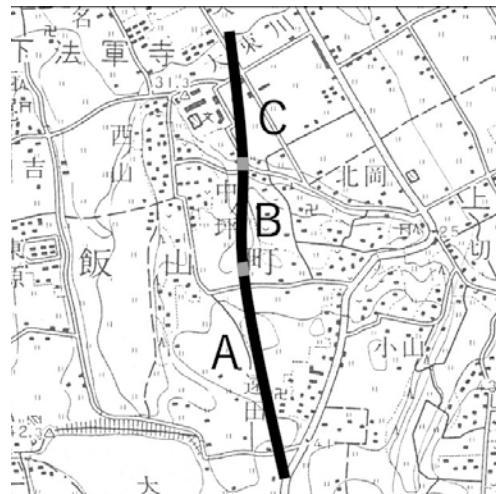


図9 調査地位置図（国土地理院1/25,000「丸亀」）

をよく表している。21・22 トレンチ等では厚さ 20～40cm の灰褐色系の粘質土や混細砂粘質土が互層をなす水平堆積が見られ、断面観察で畦畔は確認できていないものの、中世以降の水田である可能性も残る。

(まとめ)

以上の結果から、A 地区の一部 (4234.60m²) については「岡遠田（おかとおだ）遺跡」、C 地区の南部 (2231.1m²) については「沖南（おきみなみ）遺跡」、北端部 (147.23m²) については「沖遺跡」とし、事業の実施に先立ち、文化財保護法に基づく保護措置が必要である。

< A 地区 >

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	10.0 × 1.6	柱穴？4	なし	地表下 40cm ほどで削平を受けた基盤層を確認。上面で深さ 10 cm ほどの柱穴？を検出。
2	24.0 × 1.5	溝4、土坑1	須恵器、土師器	地表下 80cm で削平を受けた基盤層があり上面で遺構を検出したが、遺物はない。上位の粘質土層から土器細片 2 点出土。
3	29.0 × 1.6	柱穴10	なし	地表下 30cm で削平された基盤層があり上面に遺構あり。柱穴は並んでおり 1 基に柱痕あり。遺物はなく時期不明。
4	16.0 × 1.6	土坑1	なし	地表下 50cm で基盤層を確認。上位のややルーズな黄褐色粘質土層上面で土坑 1 基を確認。遺物はなく時期不明。
5	18.0 × 1.6	(土坑2)	なし	地表下 40cm で基盤層を確認。上面で検出した土坑は近代以降の平瓦片を含む攪乱と判明。
6	25.0 × 1.6	溝4	須恵器	南半は地表下 50cm で基盤層があるが、北半は北へ強く傾斜し、分厚い造成土が乗る。基盤層上面で溝を確認。遺物はなく時期不明。耕作土直下の包含層から須恵器片 1 点。
7	24.0 × 1.5	柱穴2	なし	堆積状況、遺構検出面は 6 トレンチと同様。遺構は遺物がなく時期不明。
8	22.0 × 1.6	なし	なし	地表下 30～40cm で削平を受けた基盤層を確認。
9	20.0 × 1.6	なし	なし	南半は地表下 25cm で削平を受けた基盤層を確認。北半は 25cm 程度の造成土があり、田を合筆したと見られる。

< B 地区 >

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
10	20.0 × 1.5	なし	なし	谷へ向かう斜面を階段状に造成した水田。耕作土直下に削平された基盤層あり。
11-1	10.0 × 1.3	なし	土師器	丘陵下の谷の内部に当たる水田。地表下 90cm で礫が混じる基盤層を確認。その上位は谷南斜面を埋めた土で、土師器細片 1 点が出土（時期特定に至らず）。
11-2	8.0 × 1.0	なし	なし	堆積状況は 11-1 トレンチと同様だが、西端は耕作土直下に基盤層が露出。

12	13.0 × 1.5	なし	なし	谷の内部に当たり、地表下 200cmまで掘ったが底面は確認できず。黒色粘土層の上位にグライ化したシルト層が堆積。
13	12.0 × 1.5	なし	なし	谷の右岸肩の検出を試みたが、地表下 190cmでも底面は確認できず。谷の両岸はかなり急傾斜と判断される。シルト層と砂層が分厚く堆積する。
14	12.0 × 1.5	なし	なし	谷の左岸肩の検出を試みたが、西端の地表下 110cmで底面を確認。東方へ急傾斜で下がる。谷内部の堆積は 13 トレンチと同様。
15	14.0 × 1.8	なし	なし	谷左岸の階段状の水田部で、地表下 50cmで削平された基盤層を確認。水田化した際に北東側に造成している。
16	20.0 × 1.6	なし	土師器	谷の内部で、西端の地表下 160cmで底面を確認。堆積状況は 13 トレンチと同様。谷の埋土から土器細片数点出土。
17	20.0 × 1.6	なし	須恵器	谷の内部で、東端の地表下 140cmで底面を確認。堆積状況は 16 トレンチと同様。谷の埋土から土器細片 1 点出土。
18	16.0 × 1.6	なし	土師器	谷の内部で、東端の地表下 110cmで底面を確認。堆積状況は 17 トレンチと同様。谷の埋土から土器細片 1 点出土。

< C 地区 >

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
19	24.0 × 1.6	溝 6 土坑 1	土師器 青磁碗	台地下の水田部分で、地表下 50cmで削平された基盤層を確認。上面で遺構を検出。溝は条里方向と合致するものも見られ、土師器碗から中世と想定される。青磁碗片は包含層からの出土。
20	15.0 × 1.6	溝 3 土坑 1	土師器	地表下 80cmで削平された基盤層があり、上面で遺構を検出。西端の溝は条里の坪界溝と想定され、土師器碗が出土。他の溝は条里方向ではない。湧水が著しい。
21	14.0 × 1.6	溝 ? 1	土師器 須恵器	20 トレンチより一段下がる水田で、地表下 70cmで削平された基盤層を確認。上面で砂層で埋没した溝 ? を検出。基盤層の上位には粘質土層が水平に堆積しており、水田の可能性も想定されるが、断面で畦畔は確認していない。
22	10.0 × 1.6	なし	なし	21 トレンチと同一の水田に設定。条里の坪界溝を狙ったが検出できなかった。堆積状況は 21 トレンチと同じ。
23	10.0 × 1.5	なし	なし	現代の水路を挟み 22 トレンチの反対側で条里の坪界溝を狙い設定したが検出できず。地表下 190cmまで掘ったが 19 トレンチの基盤層（黄色系粘土）は見られず、細砂層と粘土層が分厚く堆積。地表下 100cm付近で湧水がある。
24	10.0 × 1.6	なし	土師器 須恵器	堆積状況は 23 トレンチと同様。中世土器の希薄な包含層がある。
25	7.0 × 1.5	溝 1 土坑 1	なし	大東川右岸の氾濫原より一段高い水田で、耕作土直下で基盤層を確認し上面で遺構を検出。遺物がなく時期不明。

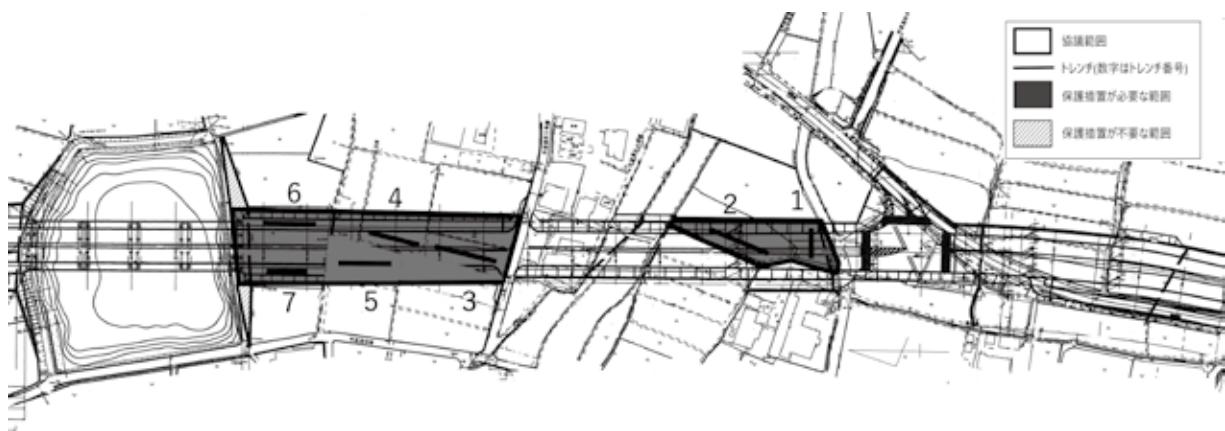


図 10 トレンチ配置及び取扱図 1

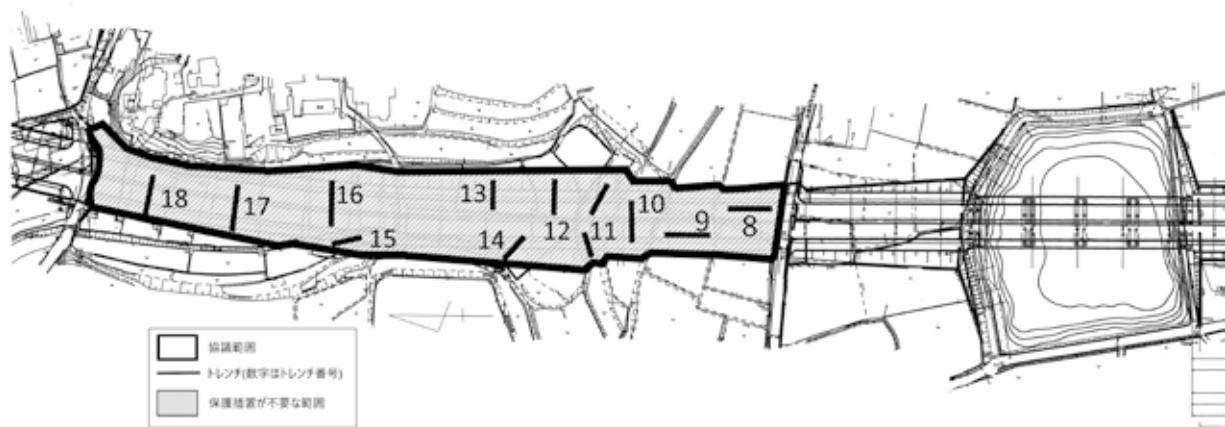


図 11 トレンチ配置及び取扱図 2

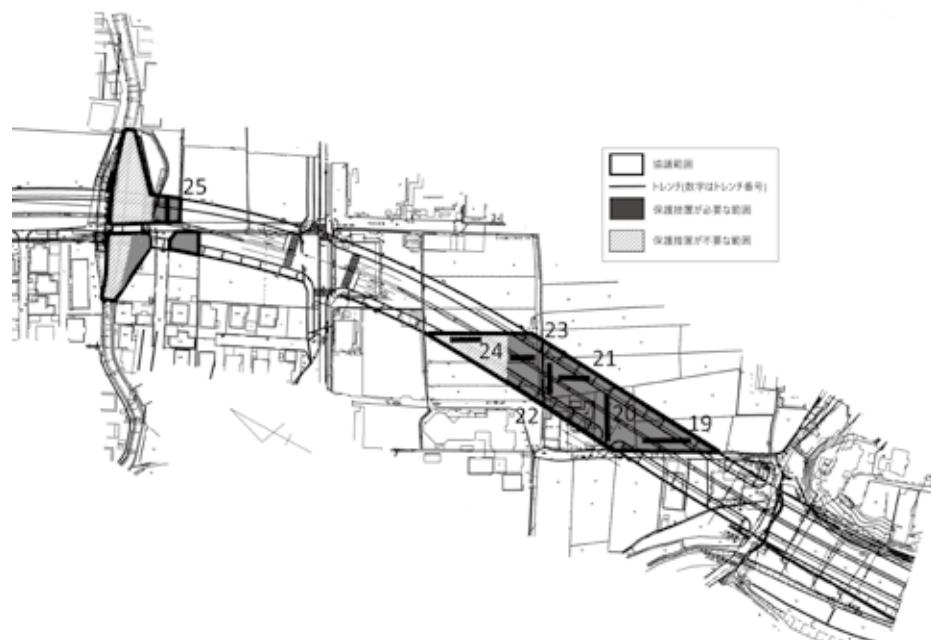


図 12 トレンチ配置及び取扱図 3



写真9 2トレンチ全景



写真10 2トレンチ溝



写真11 3トレンチ全景



写真12 3トレンチ柱穴



写真13 6トレンチ全景



写真14 6トレンチ溝



写真15 13トレンチ全景



写真16 13トレンチ土層



写真 17 18 トレンチ東半全景



写真 18 18 トレンチ東半土層



写真 19 19 トレンチ全景



写真 20 19 トレンチ溝



写真 21 20 トレンチ全景



写真 22 20 トレンチ溝土層



写真 23 25 トレンチ全景



写真 24 25 トレンチ土坑と溝

第3章 県道建設予定地内の調査

(1) はじめに

県教育委員会では、昭和63年度から、大規模なバイパス建設予定地の試掘調査を国庫補助事業に含めて、適宜対応してきた。平成7年度以降は、県道拡幅等の道路改良事業等も調査対象に含め、実施している。県道事業に関しては、県内4か所の土木事務所及び小豆総合事務所道路課との協議により、埋蔵文化財の保護措置を図っており、平成30年度は1路線について試掘調査を実施した。

(2) 調査の概要

県道太田上町志度線（六条工区）道路建設

(対象地の状況)

今回の調査対象地は、春日川右岸の沖積地に当たり、主に水田として土地利用がなされている。対象地付近には条里制に由来する方格地割が遺存しているが、東西方向が明瞭であるのに対し、南北方向は不明瞭な地域である。

(調査の結果)

現耕作土の直下に中世の土師器片を1点検出した黄褐色混細砂粘質土が見られるが、その下位の暗茶褐色粘土層の上面が水平であることから旧耕作土であったと考えられる。暗茶褐色粘土層は各トレンチで確認されることから広範にわたると見られ、昨年度の春日川以西の試掘で地山とした黒褐色粘土層と連続する可能性がある。上面での遺構検出に努めたが、遺構は確認できなかった。1トレンチ東端から2トレンチ西半に見られた灰褐色粗砂層は、規模の小さな自然河川と見られる。暗茶褐色粘土層の下位に見られる砂と粘土の互層は、当該地が扇状地の扇端付近に当たることを示すものであろう。

(まとめ)

以上の結果から、今回の対象地については包蔵地が確認できず、事前の文化財保護法に基づく保護措置は不要と判断できる。対象地中央部の商業施設が存在する箇所については、2・3トレンチの土層堆積状況等から保護措置は不要と判断できる。



図13 調査位置図(国土地理院1/25,000「高松南部」)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	19.0 × 1.6	なし	なし	耕作土直下に40～50cm厚さの黄褐色系混細砂粘質土、削平を受けた暗茶褐色粘質土があり、下位は粘土と砂が交互に堆積。東端は暗茶褐色粘土層に代わり湧水の著しい灰褐色粗砂層が堆積。

2	22.0 × 1.6	なし	なし	西半は1トレンチの土層が連続するが、東半は暗茶褐色粘土層が出現し、1トレンチ西半の堆積状況を示す。
3	13.0 × 1.6	なし	土師器 細片 1	耕作土直下には粒度の粗い砂を含む粘質土が堆積し、中世土器細片1点が出土。その下位は1・2トレンチと同様に暗茶褐色粘質土層が堆積する。

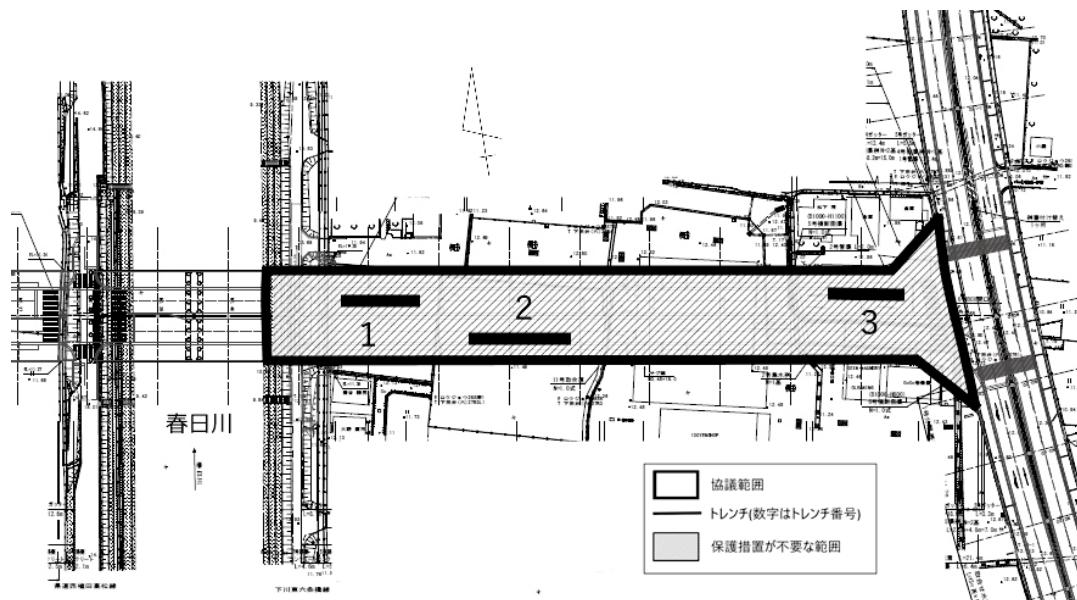


図 14 トレンチ配置及び取扱図



写真 25 1 トレンチ全景



写真 26 1 トレンチ土層



写真 27 3 トレンチ全景



写真 28 3 トレンチ土層

第4章 独立行政法人・県事業予定地内の調査

(1) はじめに

国道事業、県道事業、県営農政事業を除いて試掘・確認調査を実施したものとして、以下の3事業がある。

(2) 調査の概要

西日本農業研究センター 用水路左岸法面土砂搬出等工事

(対象地の状況)

今回の調査対象地は、西日本農業研究センター敷地の北端・北東隅付近の2か所あり、3基が並列する出水の1つの隣接地（A地区）とやや東方のテニスコート跡地（B地区）に分かれる。いずれも周知の埋蔵文化財包蔵地「旧練兵場遺跡」に極めて隣接する。

(調査の結果)

A地区は用水路への土砂流入を防ぐために盛り土を削って平坦面を設ける工事である。トレンチ調査の結果、約1.6～2.0m程度の盛り土の下に旧耕作土・床土があり、その下位で中世以降の包含層の可能性がある淡灰褐色粘質土層を確認したが、遺構・遺物は検出できなかった。

B地区はテニスコート跡地に簡易なビニールハウスを建て給水管を敷設する工事で、給水管設置部分をトレンチ調査した。花崗土の盛り土の下位で旧耕作土と褐色系粘質土の一部を確認したが、遺構・遺物は認められなかった。

(まとめ)

A・B地区ともに工事の掘削深度に達したため、さらなる掘り下げは行わなかった。仮に下位に周知の埋蔵文化財包蔵地「旧練兵場遺跡」に関する遺構・遺物が存在したとしても保護層が存在することから、今回の工事範囲についての埋蔵文化財の保護措置は不要と判断した。

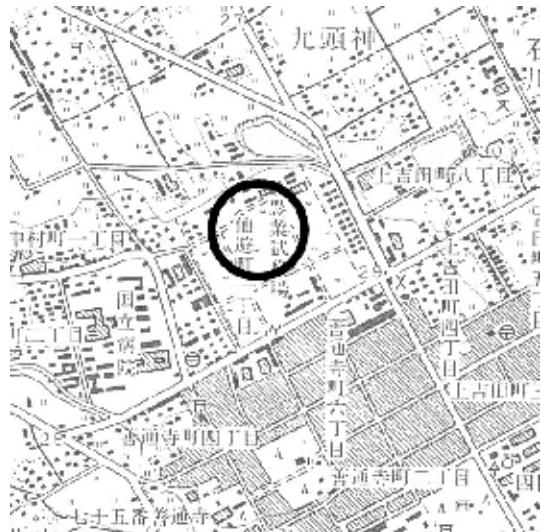


図15 調査地位置図(国土地理院 1/25,000 「善通寺」)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	4.0 × 1.6	なし	なし	約1.6mの盛土の下で旧耕作土・床土、淡灰褐色粘質土を確認。工事の掘削深度に達したが、さらに掘り下げて砂礫層を確認。中谷川の河川域でもともと遺構は存在しない可能性が高い。
2	5.0 × 1.6	なし	なし	1トレンチと同様、約2mの盛土があり、その下位でコンクリートの基礎を検出。試験場以前の建物の基礎と思われ、さらにその下で旧耕作土、淡灰褐色粘質土を確認。

3	2.5 × 1.0	なし	なし	テニスコート跡地で、コート表面を撤去し花崗土で造成。下位に旧耕作土があり、その下は締まりのない淡褐色粘質土が堆積。工事の掘削深度に達したのでそれ以下は掘り下げなかつた。
4	2.5 × 1.0	なし	なし	3トレンチと似た堆積状況だが、旧耕作土下の褐色粘質土は固く締まり、小礫が混じる。弥生時代の包含層の可能性があるが、今回は遺物が出土しなかった。

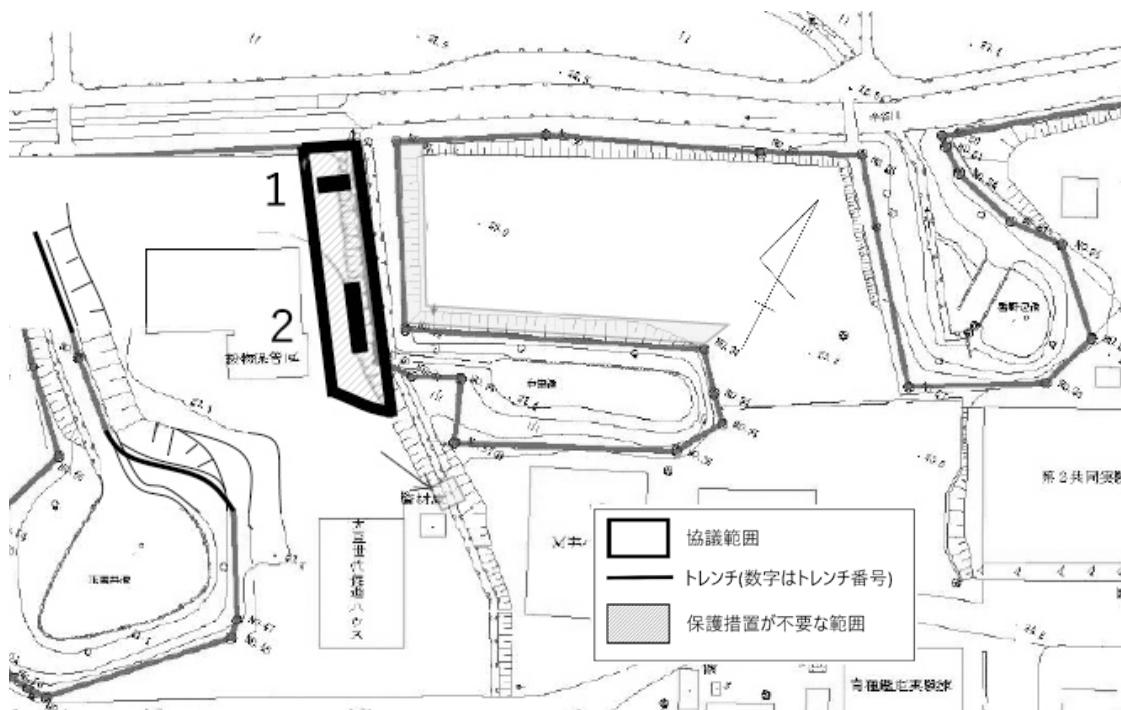


図 16 トレンチ配置及び取扱図 1

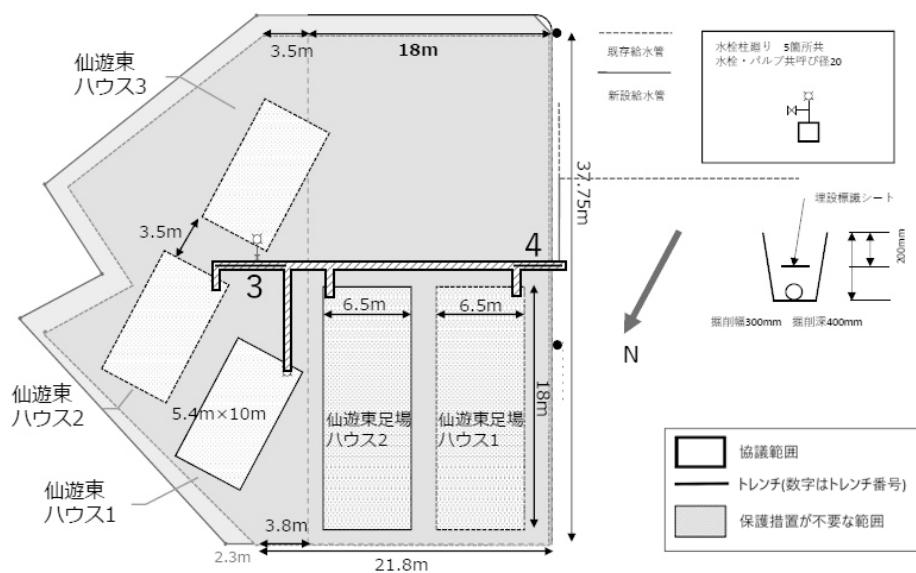


図 17 トレンチ配置及び取扱図 2



写真 29 1 トレンチ全景



写真 30 2 トレンチ全景



写真 31 3 トレンチ全景



写真 32 4 トレンチ全景

老朽化校舎等改築事業（坂出高校 体育館解体及び改築）

（対象地の状況）

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「文京町二丁目遺跡」が所在する坂出高校の第1体育館の撤去・改築予定地である。現在は市街地の中心部であるが、かつては海岸線に平行する砂堆であったと推定されている箇所に当たる。

（調査の結果）

改築後の体育館の基礎を予定している箇所にトレンチを設けて調査した結果、各トレンチで整地層の下に旧耕作土が認められ、1917年（大正6年）の学校創立以前の土層が残っていることを確認した。旧耕作土の下位には青灰色細～中砂層が辺り一帯に堆積しており、この層は下位ほど砂の粒度が粗くなり底付近で拳大の礫が含まれていることから、滯水状態にあったことがうかがえる。海水性の貝類等は全く認められること等から、「文京町二丁目遺跡」が所在する砂堆の北縁部付近の海浜部に相当すると考えられる。

（まとめ）

対象地内において遺構・遺物は確認できなかったため、今回の工事範囲についての埋蔵文化財の保護措置は終了とした。

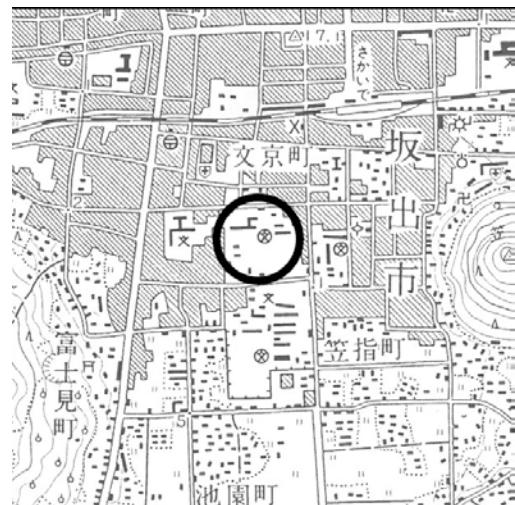


図 18 調査地位置図 (国土地理院 1/25,000 「丸亀」)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	25.0 × 2.0	なし	なし	地表下 60 ~ 70cm で旧耕作土があり、地表下 120cm で礫を含んだ青灰色の細～中砂層を確認。その下は淡青灰色粘質土が堆積しており、上位層との境で湧水が著しい。
2	25.0 × 2.0	なし	なし	堆積状況は 1 トレンチと同様だが、礫を含んだ青灰色細～中砂層の下に粘質土層ではなく、少量の自然木を含んだ青灰色粗砂が堆積。湧水は 1 トレンチより著しい。
3	10.0 × 2.0	なし	なし	堆積状況は 1・2 トレンチと同様。地表下 130cm で青灰色細～中砂層を確認。その下は東半は淡青灰色粘質土、西半では青灰色粗砂を検出。

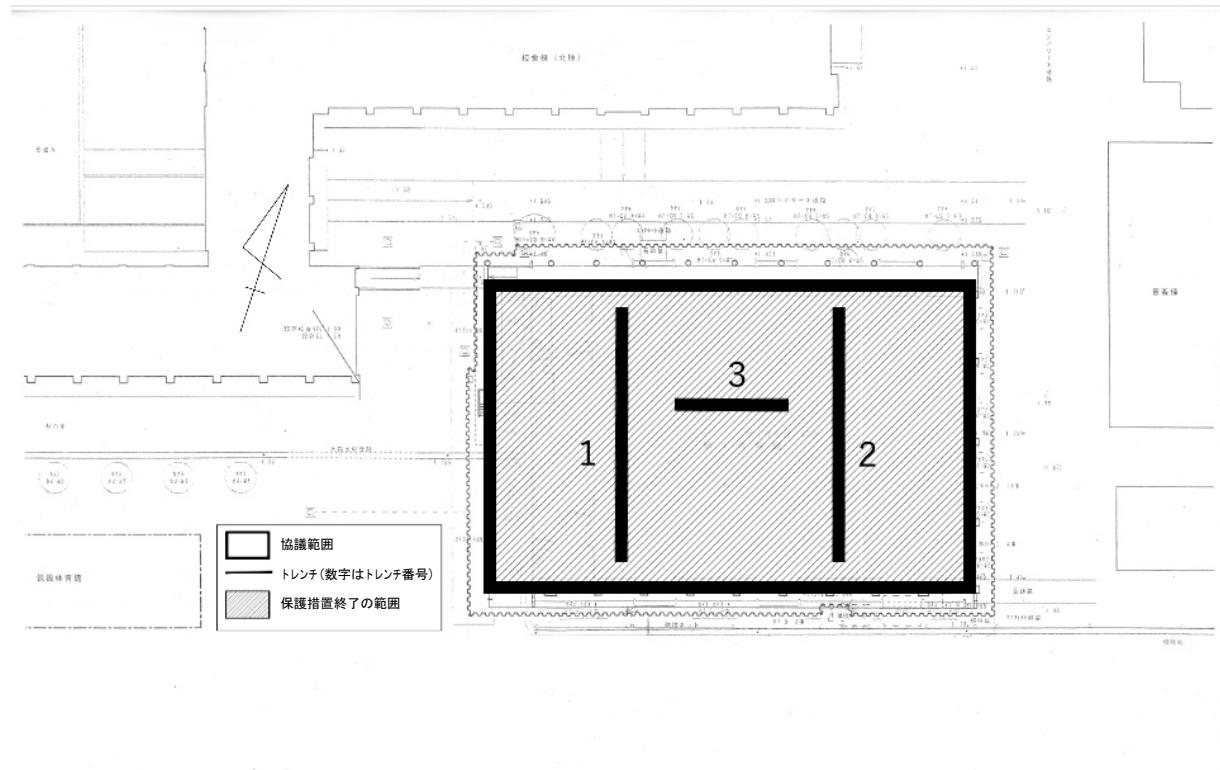


図 19 トレンチ配置及び取扱図



写真 33 対象地遠景



写真 34 1 トレンチ土層 1



写真 35 1 トレンチ土層2



写真 36 2 トレンチ土層1

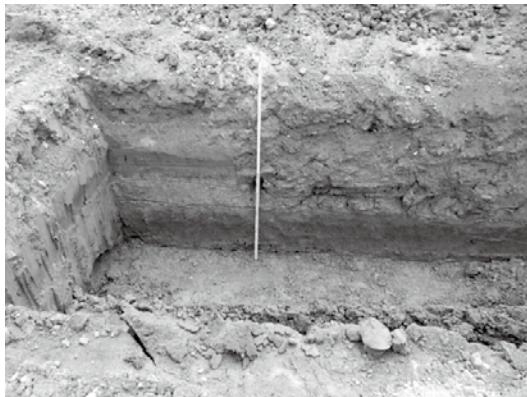


写真 37 2 トレンチ土層2



写真 38 3 トレンチ土層

小豆地域特別支援学校整備事業

(対象地の状況)

対象地は小豆島町立池田小学校の西側に隣接する畠地で、亀山八幡宮の座す丘陵裾の沖積地に当たる。周知の埋蔵文化財包蔵地「浜条遺跡」が近接している。

(調査の結果)

1・3 トレンチでは中世頃の須恵器片1点、近世陶磁片1点が出土した希薄な包含層である淡灰褐色混細砂粘質土を確認し、この層を掘り込む時期を特定できない溝1条を検出した。包含層の下位は湧水が著しい中～粗砂層、黒灰色粘土、礫の混じる青灰色粗砂の堆積を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。丘陵に近い2 トレンチでは比較的安定した淡青灰色シルト層を確認したが、上面は削平され、遺構・遺物も認められなかった。隣接する池田小学校校庭はため池を埋め立てたとの現地情報や、各トレンチの著しい湧水の状況等から、溝は排水目的で掘られた可能性がある。

(まとめ)

調査の結果、対象地内において遺物の出土しなかった溝1条以外の遺構は検出できず、包含層からの遺物の出土もきわめて微量であることを確認した。これらから今回の対象地については文化財保護法に



図 20 調査地位置図 (国土地理院 1/25,000 「土庄」)

基づく事前の保護措置は不要と判断する。

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	26.0 × 1.6	溝 1	須恵器 細片 1	地表下に 40cm で希薄な包含層を確認。地表下 70cm 以下は中～粗砂が堆積し、その下に黒灰色粘土が見られる。包含層を切り込む溝 1 条のみを検出。砂層からの湧水が著しい。
2	22.0 × 1.5	なし	なし	地表下 30 ～ 40cm で比較的安定した淡青灰色シルト層を確認。その下は灰色細砂層、黒灰色粘土が堆積する。砂層からは湧水があり、全体にグライ化する。
3	5.0 × 1.3	溝 1	なし	1 トレンチの溝の続きを探るため追加したトレンチ。堆積状況は 1 トレンチと同じ。溝の続きを検出したが遺物は認められなかった。

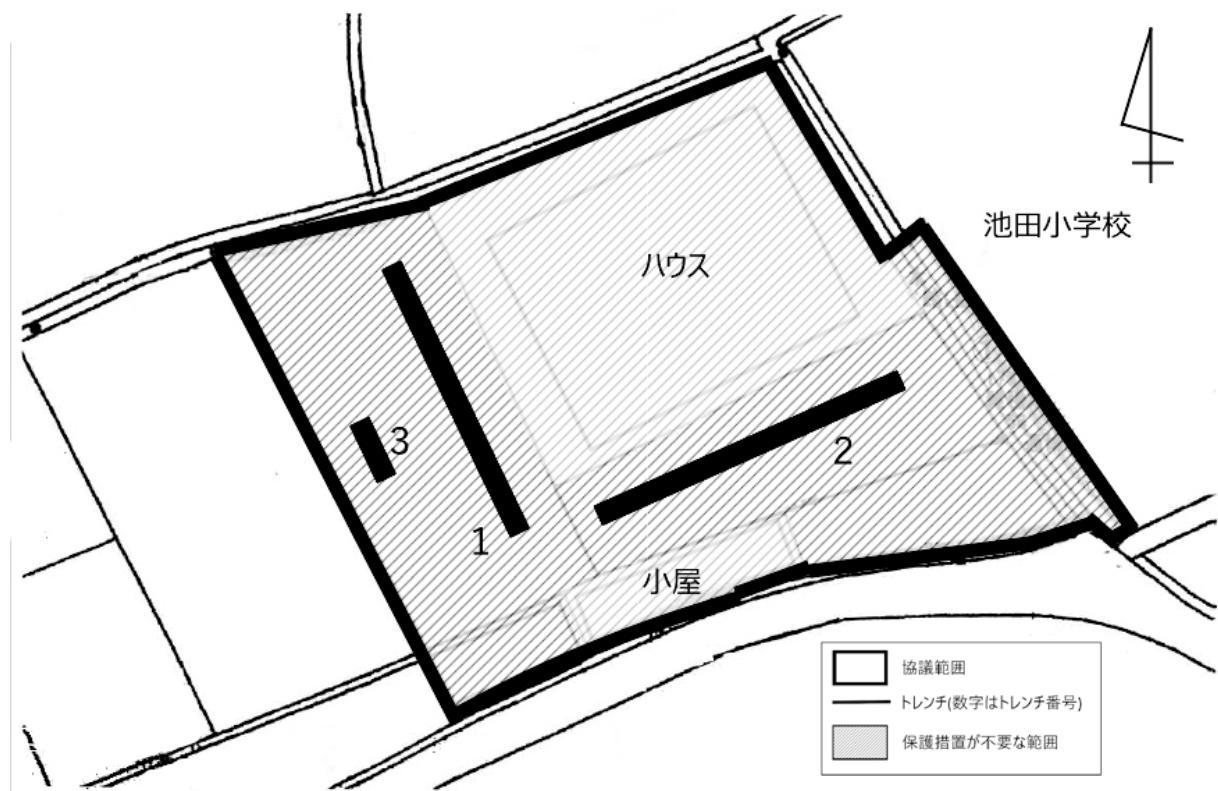


図 21 トレンチ配置及び取扱図



写真 39 1 トレンチ全景



写真 40 1 トレンチ土層



写真 41 1 トレンチ溝断面



写真 42 2 トレンチ全景



写真 43 2 トレンチ土層



写真 44 3 トレンチ全景

第5章 県営農政事業予定地内の調査

(1) はじめに

県営農政事業に伴う埋蔵文化財の保護については、主に大規模な事業面積が計画された県営ほ場整備事業やため池等整備事業を対象としている。試掘調査で埋蔵文化財包蔵地が確認された場合は、事業者に対して、盛り土等設計・施工変更による現状保存を要請・協議している。なお、現地保存が不可能な場合に限り、事業地が所在する市・町教育委員会が事前の発掘調査を実施する方向で協議・調整を行っている。今年度は2地点において、試掘・確認調査を実施した。

(2) 調査の概要

経営体育成基盤整備事業（羽床下地区8工区）

（対象地の状況）

今回の調査対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「津頭西古墳（1号墳）」「津頭西2号墳」等が所在する丘陵の北側で、大きく東に屈曲した綾川との間に当たる。対象地の大半は分厚く砂が堆積する綾川の氾濫原で、丘陵がかかる対象地南東部は谷地形となっている。事業実施中に遺構・遺物発見の報を受けて現地確認を行い、丘陵裾部で氾濫原より一段高い水田において緊急で試掘調査を実施した。

（調査の結果）

西端の1トレンチでは遺構・遺物は確認できなかったものの、遺構・遺物の発見地点を挟んだ2トレンチ・3トレンチで柱穴や土坑、不明遺構と弥生土器、須恵器、土師器等を検出した。遺構は耕作土直下に見られる丘陵の基盤層である橙褐色粘土層上面で確認しており、氾濫の及ばなかった部分を居住域としていたことが推定される。4～6トレンチではこの基盤層が深く潜り込み、その上位に粘質土主体の湿地性堆積物層を確認した。丘陵の谷部内の埋積と考えられる。埋積土からは若干の須恵器・土師器片が出土したが、その量は極めて少ない。

（まとめ）

以上のことから、協議対象地の氾濫原と丘陵谷部を除いた2～4トレンチを設定した部分 1,440m²（図上計測）の範囲については「小野・白石（おの・しろいし）遺跡」として、事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要である。

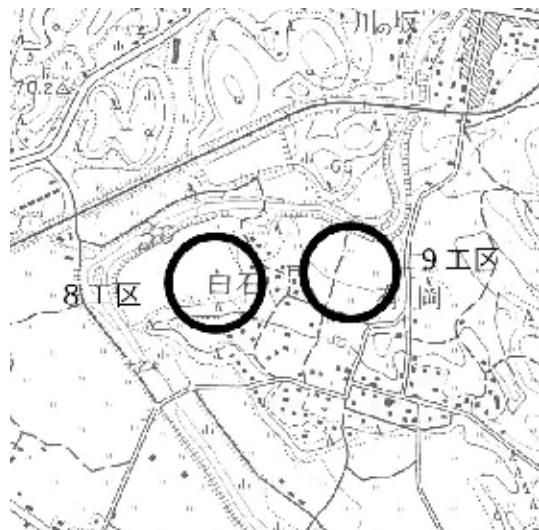


図22 調査位置図(国土地理院 1/25,000 「滝宮」)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	10.0 × 1.2	なし	なし	床土下から混細砂やシルト質の締まりの悪い粘土層が堆積。トレンチ中央から西では砂礫混じりの層があり、綾川の氾濫が丘陵裾まで部分的に及んでいたと考えられる。その下位には固く締まった粘土層（基盤層）を確認。

2	11.5 × 1.2	柱穴6、性格不明 遺構1	弥生土器	周囲より一段高い水田で、丘陵側では床土直下に基盤層を確認し、上面で柱穴3基を検出。北に向かって弥生土器を含んだ暗茶褐色粘土層の落ち込みがあり、北半ではその下位で柱穴3基を検出しており、複数の遺構面が存在する。
3	9.0 × 1.2	土坑1	弥生土器、須恵器、土師器	地表下40cmで湿地性堆積物層を確認。南端では上面から掘り込んだ土坑を検出。南半の最下層から弥生土器片がわずかに出土した。
4	7.0 × 1.5	なし	須恵器、土師器	3トレンチと似た堆積状況を示す。地表下2mまで掘り下げたが、丘陵基盤層には達せず。地表下約80cmで須恵器甕が出土。
5	4.0 × 1.5	なし	土師器	地表下1.5mで湿地性堆積物層を確認。上位は丘陵からの流入層があり、中世土器片をわずかに含む。
6	5.0 × 1.2	なし	なし	6トレンチと同じ堆積状況で、地表下1.6mで湿地性堆積物を確認。

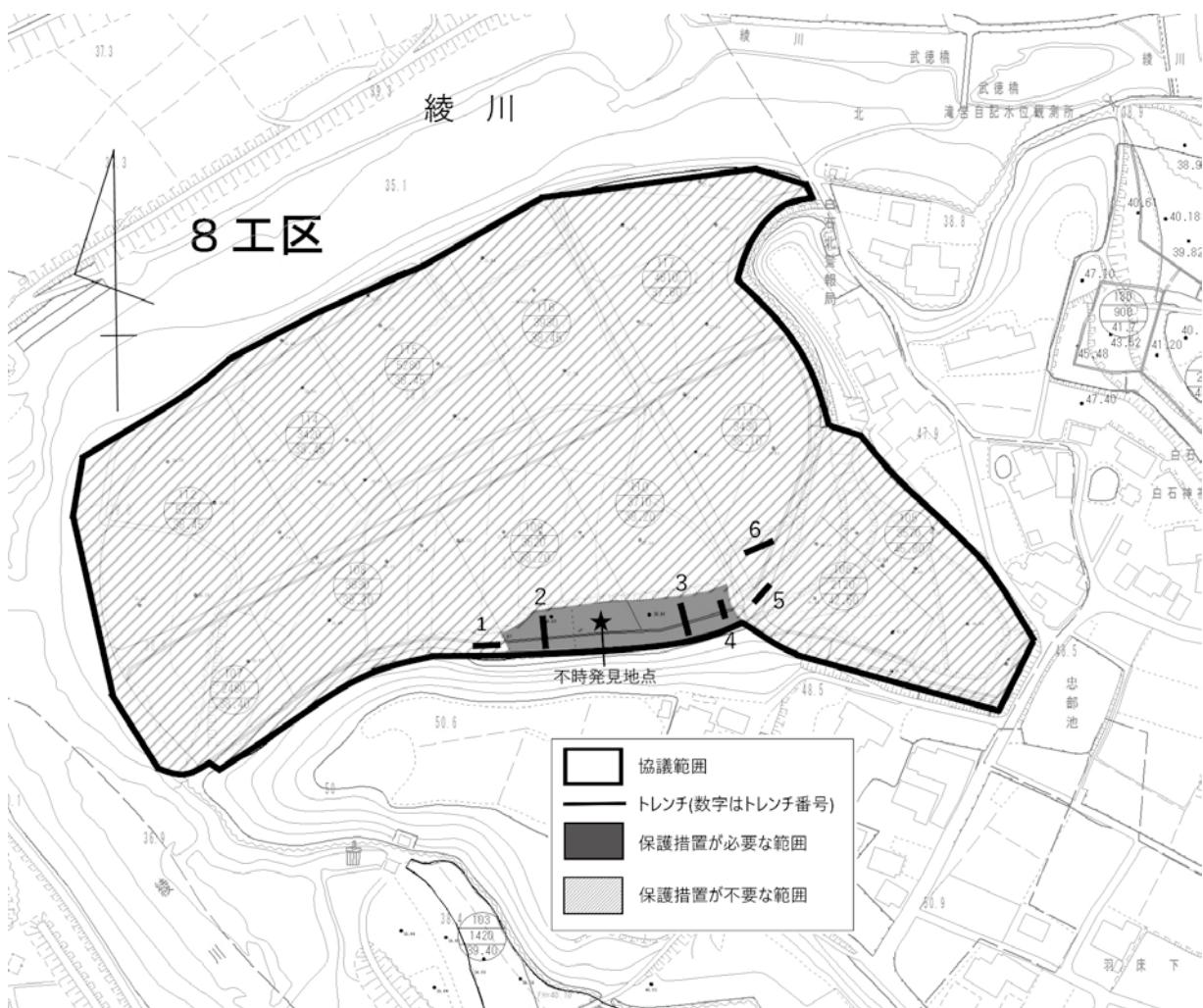


図23 トレンチ配置及び取扱図



写真 45 2トレンチ全景



写真 46 2トレンチ柱穴



写真 47 3トレンチ全景



写真 48 3トレンチ土坑



写真 49 4トレンチ全景



写真 50 4トレンチ 須恵器 瓢



写真 51 5トレンチ全景



写真 52 5トレンチ土層

経営体育成基盤整備事業（羽床下地区9工区）

（対象地の状況）

今回の調査対象地は、遺構・遺物の不時発見があった場所と丘陵を隔てた東側の、綾川に面した北に開けた丘陵斜面に当たる。広大な対象地内には小規模な丘陵や谷等の地形が認められる。周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地の「白石1号墳」「岡田井1号墳」等の古墳が点在しているが、対象地内に周知の埋蔵文化財包蔵地は知られていない。事業者と事前協議を行い、土地の切り下げを行う部分についてトレンチ調査を実施した。

（調査の結果）

22か所設定したトレンチのうち、西側の丘陵裾部周辺の16・18・21トレンチ、中央丘陵と東側丘陵の間の谷部に当たる7トレンチで遺構を検出した。東側丘陵裾の1～3トレンチは古墳の存在も期待されたが、大規模な土地改変を受けており、遺構・遺物は認められなかった。中央の丘陵部の9～12トレンチも同様に削平を受けた地山層が耕作土直下に見られた。丘陵間の谷部に当たる4～8トレンチは細砂を含む粘質土が分厚く堆積しており、7トレンチで谷筋の方向と合致する溝1条を検出したにとどまった。西側丘陵からやや下がった16～18トレンチでは丘陵から流出した粘質土が見られ、16・18トレンチではその下位で柱穴や竪穴建物を確認している。西側丘陵上に当たる19～22トレンチは希薄な包含層が認められ、21トレンチでは検出面の異なる2条の溝を検出した。遺物は伴わないと想定されるが、上位の溝は古代、下位の溝は弥生時代の可能性がある。

（まとめ）

以上から、遺構を確認した7・16・18・21トレンチが所在する田地については「北・武徳（きた・ぶとく）遺跡」として、今後の開発等からの保護を図る必要がある。今回の調査では遺構の確認はできなかったが、21トレンチと土層の堆積状況や包含層の存在等が一致する22トレンチ部分も遺跡に含めることが妥当と判断する。

遺構を確認した4本のトレンチのうち、7・16・18トレンチ部分は土地の切り下げ深度が浅く、遺構面との間に十分な保護層が確保できるため、埋蔵文化財は工事の影響から保護されると判断できる。また、保護措置が不要とした範囲も、土地の切り下げを行っていない部分は次回の工事には改めて対応が必要である。

切り下げ深度が遺構面より深くなる21・22トレンチ部分 1,136m²（切土面積産出表より）の範囲については、事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要である。

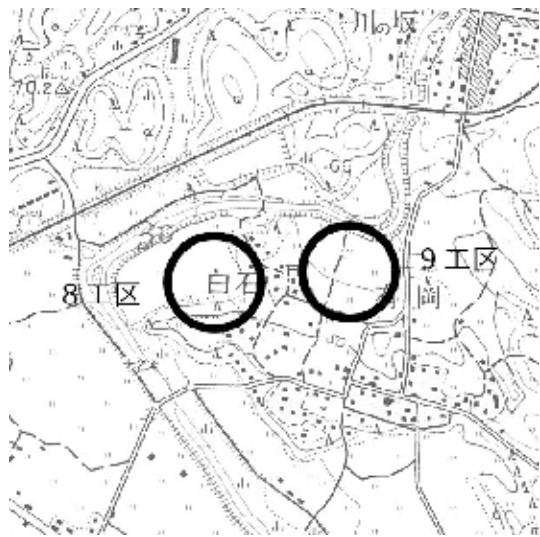


図24 調査地位置図(国土地理院 1/25,000 「滝宮」)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	14.0 × 2.0	なし	なし	耕作土下に削平を受けた地山を確認。
2	15.0 × 2.0	なし	なし	丘陵裾を削平して水田を開墾。西側に盛り土を行い、水田を合筆。
3	7.0 × 2.0	なし	なし	丘陵裾の高まり部分だが、削平を受け耕作土直下に地山層。

4	14.0 × 2.0	なし	なし	丘陵間の谷部で混砂粘質土が堆積。地表下 130cmで基盤層を確認。湧水が見られる。
5	14.0 × 2.0	なし	なし	丘陵間の谷部の出口付近。堆積状況は 4 トレンチと同様。
6	6.0 × 2.0	なし	なし	丘陵間の谷部で、堆積状況は 4 トレンチと同様。湧水あり。
7	14.0 × 2.0	溝 1	なし	丘陵間の谷部で堆積状況は 4 トレンチと同様。地表下 140cmで基盤層を確認。上面で溝を検出。
8	10.0 × 2.0	なし	なし	丘陵間の谷部で、砂層・シルト層が堆積。地表下 150cmで基盤層を確認。湧水あり。
9	6.0 × 2.0	なし	なし	丘陵間の谷部で、砂層・シルト層が堆積。地表下 150cmで基盤層を確認。
10	14.0 × 2.0	なし	なし	丘陵上に当たり、耕作土直下で削平を受けた基盤層を確認。
11	14.0 × 2.0	なし	なし	丘陵上に当たり、耕作土直下で削平を受けた基盤層を確認。
12	10.0 × 2.0	なし	なし	丘陵裾部で、上面は削平を受けている。地表下 85cmで基盤層を確認。
13	10.0 × 1.6	なし	なし	南側の丘陵上で、地表下 55cmで削平を受けた基盤層を確認。
14	14.0 × 1.2	なし	なし	耕作土下で削平を受けた基盤層を確認。階段状に水田を開墾。
15	15.0 × 2.0	なし	なし	南側の丘陵上で、耕作土直下に削平された基盤層を確認。
16	14.0 × 2.0	柱穴 2	なし	丘陵の裾部で、耕作土下に混砂粘質土が堆積。地表下 100cmで基盤層を確認し、上面で柱穴 2 基を検出。
17	12.0 × 2.0	なし	なし	丘陵の裾部で、地表下 80cmで基盤層を確認。
18	16.0 × 2.0	柱穴 2、 豎穴建物? 1	弥生土器	丘陵の裾部で、耕作土下に混砂粘質土が堆積。その下に弥生土器を含む希薄な包含層があり、基盤層に至る。基盤層上面で柱穴 2 基、焼土・炭を含んだ豎穴建物状の落ち込み 1 基を検出。
19	12.0 × 2.0	なし	なし	丘陵の端部で、地表下 60cmで基盤層を確認。基盤層直上に 18 トレンチの包含層と似た土が堆積するが遺物はない。
20	6.0 × 1.2	なし	なし	丘陵上の高まり部分だが、削平を受け耕作土直下に基盤層。
21	12.0 × 2.0	溝 2	弥生土器、 須恵器	丘陵の斜面部で階段状に開墾されていたが、地表下 70cmで溝 1 条、同 120cmで溝 1 条を確認。中世、古墳時代、弥生時代の希薄な包含層の堆積を確認。
22	8.0 × 1.5	なし	なし	21 トレンチの遺構検出を受けて追加。遺構は確認できなかつたが、包含層等堆積状況は 21 トレンチと同じ。





写真 55 7 トレンチ溝



写真 56 10 トレンチ全景



写真 57 16 トレンチ全景

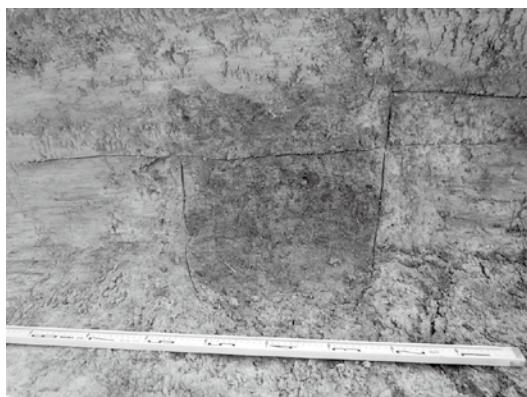


写真 58 16 トレンチ柱穴



写真 59 18 トレンチ全景



写真 60 18 トレンチ豊穴建物か



写真 61 21 トレンチ全景



写真 62 21 トレンチ溝

農業試験場府中果樹研究所擁壁等設置工事

(対象地の状況)

今回の調査対象地は、農業試験場府中果樹研究所敷地の南端付近に位置し、蓮光寺山の山腹から山裾にかけて存在する周知の埋蔵文化財包蔵地「蓮光寺山遺跡」の中に当たる。研究所の諸施設が建つ部分についてはすでに階段状に削平されており、今回の事業に伴う大規模な掘削はすでに昨年度にほぼ終了している（埋蔵文化財の対応済み）。今年度は小規模な切土範囲について試掘調査を実施した。

(調査の結果)

切土を行う範囲2地点についてトレンチ調査を行った結果、過去に施設や道路を設置した際の工事範囲が事業掘削深度まで及んでいることを確認した。造成土の直下に、上面を削平された黄褐色粘土の基盤層が露出しており、旧地表面が失われていることが判明した。また、遺構も遺物も確認することはできなかった。

(まとめ)

以上から、今回の協議範囲における埋蔵文化財の保護措置は終了した。

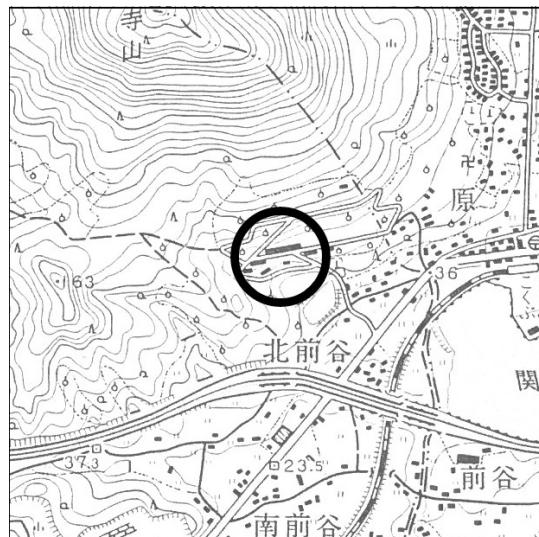


図 26 調査地位置図(国土地理院 1/25,000 「白峰山」)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	16.0 × 2.0	なし	なし	施設の古い建物を除去した部分に当たり、施工時に削平を受けて旧地表面が失われていることが判明した。
2	-	なし	なし	トレンチを設定せずにコンクリート敷き道路の撤去作業中を立会した。道路施工時の工事範囲が事業掘削深度まで及んでいるため、旧地表面が消失していることを確認した。



写真 63 1 トレンチ遠景



写真 64 昨年度施工部の土層



写真 65 1 トレンチ作業風景



写真 66 1 トレンチ土層



写真 67 2 トレンチ遠景



写真 68 2 トレンチ土層

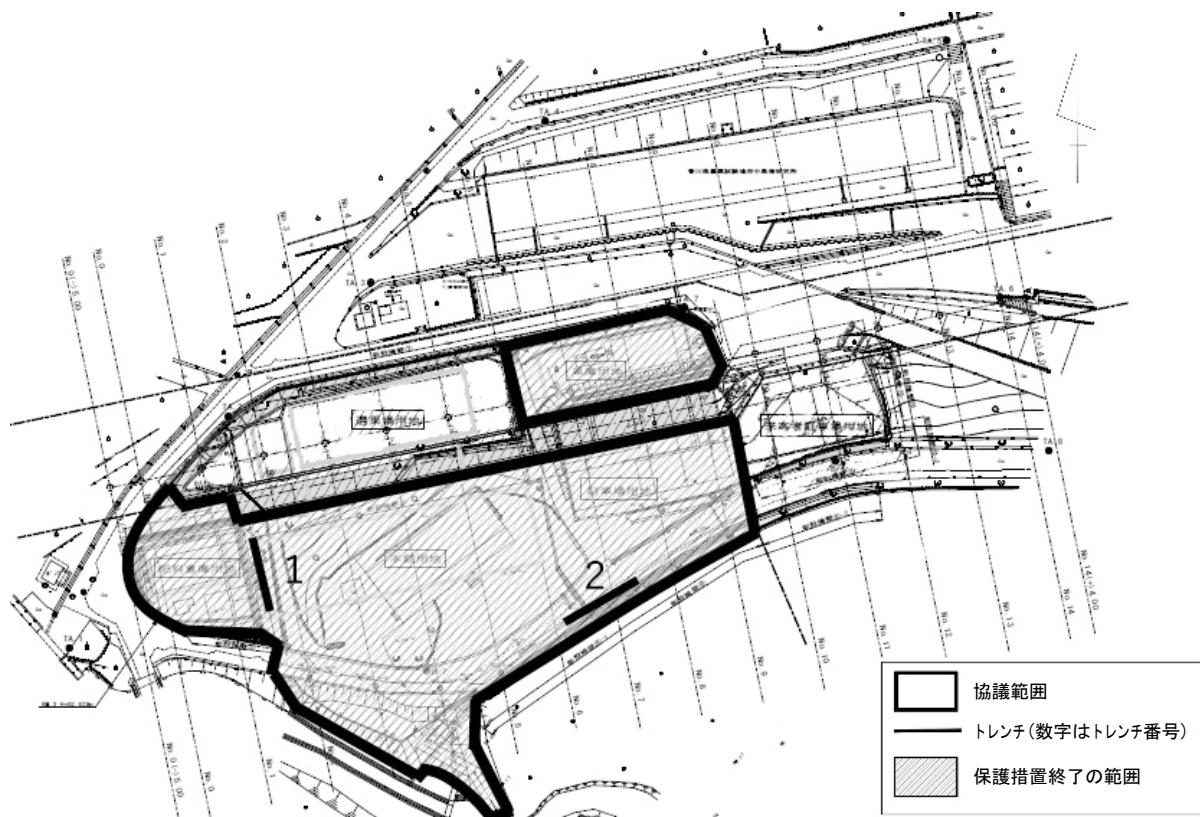


図 27 トレンチ配置及び取扱図

報 告 書 抄 錄

ふりがな	まいぞうぶんかざいしづつちょうさほうこく 31
書名	埋蔵文化財試掘調査報告 31
副書名	平成 30 年度 香川県内遺跡発掘調査
編著者名	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 電話 0877-48-2191 (代)
発行機関名	香川県教育委員会
発行年月日	令和元年 11 月 30 日

所収遺跡名	所在地	コード		(世界測地系)		調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
城泉東遺跡	東かがわ市白鳥	37207		34° 14' 23"	133° 21' 20"	2018.7.17 ~ 19	145.6	国道 11 号大内白鳥バイパス建設 (1 工区)
沖遺跡	丸亀市飯山町	37202		34° 14' 56"	133° 51' 21"			
沖南遺跡	丸亀市飯山町	37202		34° 14' 48"	133° 51' 22"	2018.12.17 ~ 20、 2019.1.15 ~ 22	659.6	国道 438 号 (飯山工区) 道路整備
岡達田遺跡	丸亀市飯山町	37202		34° 14' 26"	133° 51' 26"			
文京町二丁目遺跡	坂出市文京町	37203		34° 18' 37"	133° 51' 14"	2018.8.9 ~ 10	120	老朽化校舎等改築事業 (坂出高校)
小野・白石遺跡	綾歌郡綾川町小野	37387		34° 14' 32"	133° 54' 41"	2018.5.22	59.1	経営体育成基盤整備 (羽床下地区)
北・武徳遺跡	綾歌郡綾川町北	37387		34° 14' 32"	133° 54' 31"	2018.7.23 ~ 25	478	
蓮光寺山遺跡	坂出市府中町	37203		34° 18' 2"	133° 56' 6"	2018.12.6	32	農業試験場府中果樹研究所擁壁等設置工事

埋蔵文化財試掘調査報告 31

平成 30 年度 香川県内遺跡発掘調査

令和元年 11 月

発行 香川県教育委員会

編集 香川県埋蔵文化財センター

住所 (香川県教育委員会)

香川県高松市天神前 6 番 1 号

香川県天神前分庁舎

電話 087-832-3786

印刷 ワールド印刷株式会社